

駒ヶ根市文化財

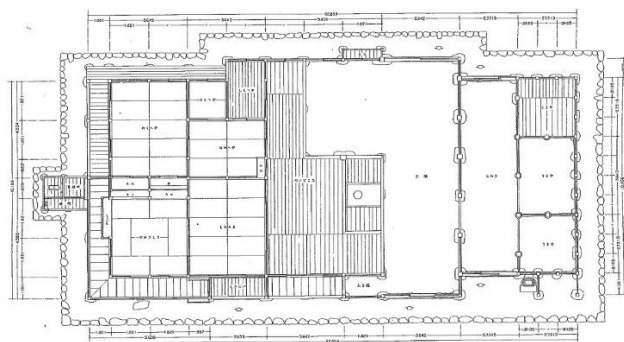
名称	旧竹村家住宅
種別	建造物
指定	国・重要文化財(昭和 41. 6. 11)
所在地	赤穂 26
所有者	駒ヶ根市
説明	<p>この旧竹村家は、中沢本曾倉大津渡にあったものを、昭和 43 年(1968)12 月現在地に移築復元されたものである。</p> <p>竹村家は江戸時代には代々名主(なぬし)(庄屋)をつとめた家柄である。建築年代は明らかでないが、江戸時代中頃(約 280 年前)と考えられる。建物は式台を備え、外観も堂々としていて東日本の民家としては最大級といわれている。旧竹村家はこの地方の江戸時代上層農家建築として重要な存在である。</p> <p>正面大戸口から入ると、広い土間とその上手に板敷の台所がある。土間と台所の間には間仕切もなく、豪壮な梁組(はりぐみ)を見せた一部屋で、いろり・ながしを中心とした日常生活の場所となっている。</p> <p>表側には、「下の間」・「上座敷」、裏側には家族の「ねま」などがある。土間の下手には「とおり」・「うまや」・「こまや」が並んでいる。</p> <p>構造としては、桁行(けたゆき)12 間半、梁行(はりゆき)5 間半、母屋背面中央に半間の庇(ひさし)を張り出した構造である。梁は 6 尺間隔の方眼状の梁組、側回(そくまわり) 1 間毎に柱が立てられている。桁は梁の上に通す折置(おりおき)組、中心に大黒柱が立ち雄大な梁組はいかにも名主層の建築を思わせる。</p>



旧竹村家住宅外観



内部



旧竹村家住宅復元平面図